


2023年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2024/9/20

団体名	うみのこてらす	活動タイトル	過疎地域の困難を抱える子への訪問支援・保護者相談支援・オンライン学習支援創出事業		
<p align="center"><b>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</b></p>			<p align="center"><b>■ 活動風景</b></p>		
<p><b>●地域の望ましい社会状況(ビジョン)</b></p>	<p>当団体の実現したいビジョンは、「過疎地域の子ども・若者が、誰一人孤立することなく、自分らしく人生を歩める社会」である。                      具体的には、社会的リソースが少ない過疎地域や小規模自治体であっても、市民や行政・学校等が協力しあい、たとえ、経済的理由や家庭環境が複雑な子、不登校や障がいなどの生きづらさ等があっても、必要なサポートが受けられ、助けて欲しいときに気軽に支え合える環境になっている社会である。また加えて、地方であっても、情報格差や出会いの格差、人口減少による体験の格差などの地域間格差を乗り越え、子ども・若者が自分の人生を自分らしく切り開いていける社会である。</p>		<p align="center"><b>訪問支援</b></p> <p align="center">アウトリーチ個別伴走支援で元気になった子どもとおでかけた様子</p>		
<p><b>●団体の社会的役割(ミッション)</b></p>	<p>当団体の役割は、社会的リソースが少ない過疎地域においても、常に子ども若者のニーズに応じた活動ができる場所や取り組みを提供する活動を行い、その活動を通じて子ども等の背景にある悩みに対し家庭、学校、その他の機関と連携しサポートするとともに、地域全体にも活力を与えることである。具体的には以下のような取組を推進する。                      1) 過疎地域の支援モデル構築：過疎地域でも持続可能な形で、障がい・不登校・貧困など多様な困難を抱える子たちにニーズに合わせた支援の提供ができる仕組みを作る                      2) 他の地域との協力：社会のインフラ化していくために他団体等とも協力し、多くの地域に貢献できるようにする</p>				
<p><b>●団体の活動基盤</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●望ましい人的資源：持続性を高めるために各事業にリーダー役割を担う人を確保し、団体の安定的な運営を担える人材を確保する。また、研究者等との連携もはかる。</li> <li>●望ましい物的資源：使用されていない空き家や公民館地域資源などの活用・食材は寄付等でまかなえるようになっている。</li> <li>●望ましい活動資金：自主事業・受託事業・助成金、個人・企業寄付、賛助会員費などバランスがとれた収益モデルが作れて、広域の自治体や現状の公的支援では手が届かない活動にも実施できる財政力を確保している。</li> <li>●望ましい情報：各種機関や専門家とも連携しながら、新規スタッフや既存スタッフへとノウハウ伝達され、みな学び合い、人材が育成されるサイクルを作れている</li> </ul>				
<p align="center"><b>■ 活動報告</b></p>			<p align="center"><b>■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</b></p>		
<p><b>●アウトリーチ個別伴走支援の実施</b>                      貧困や引きこもり、不登校などで、家から出て来れない小学生～高校生に対して、家庭訪問を実施し、出張型の居場所支援を実施した。個々の状況に応じたプログラムを実施し、次の支援へと橋渡しすることをめざした。</p> <p><b>●保護者相談の実施</b>                      保護者の悩みや不安を解消し、ともに今後のこどもの関わりについて考える保護者相談を実施した。</p> <p><b>●オンラインを活用した「学習支援」の準備/支援者（ボランティア）勉強会の実施</b>                      オンライン学び支援（学習支援、体験活動、メンタリングなど）をすでに実施している団体の講師をよび、興味をもってくれたボランティアの方と勉強会を実施。</p> <p><b>●研修会ならびにポイント集作成</b>                      訪問支援に関する研修会やアドバイスを実施すると同時に、そのノウハウをまとめたポイント集を作成し口</p>			<p align="right">2024年8月1日</p> <p align="center">訪問支援マニュアル Vo.1</p> <p>目次</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>訪問支援概要                         <ol style="list-style-type: none"> <li>支援の目的</li> <li>支援内容</li> <li>支援の実施者</li> <li>対象者</li> <li>実施の時間・回数</li> <li>実施の場所</li> <li>実施頻度</li> </ol> </li> <li>利用登録～訪問支援までの流れ                         <ol style="list-style-type: none"> <li>利用登録（オンライン申請の申し込み）</li> <li>インターク（オンラインからの流れ参照）</li> <li>訪問支援実施</li> </ol> </li> <li>訪問支援の実施                         <ol style="list-style-type: none"> <li>訪問前の準備</li> <li>訪問</li> <li>訪問後の処理</li> </ol> </li> <li>緊急時の対応                         <ol style="list-style-type: none"> <li>子ども</li> <li>保護者（世帯構成員）</li> <li>行政</li> </ol> </li> <li>利用登録後に行うこと                         <ol style="list-style-type: none"> <li>紹介機関への情報共有</li> <li>モニタリングの実施</li> <li>ケースカンファレンスの実施</li> </ol> </li> <li>支援の継続と関わり                         <ol style="list-style-type: none"> <li>支援終了との関わり</li> </ol> </li> <li>必要資料</li> </ol>		
<p align="center"><b>■ 事業を通じて得られたノウハウ</b></p>			<p align="center"><b>■ 望ましい社会状況を達成するための課題</b></p>		
<p><b>●先駆的団体（居場所支援、学習支援、訪問支援などのこども支援の分野）や専門家の意見も聞きながら、「訪問支援ポイント集」を作成し、今後のアウトリーチ個別伴走支援にあたっての運営上の課題や留意点等を把握できるようになった。</b></p> <p><b>●保護者相談は認知してもらう活動、ハードルを下げて1回目の利用ができる活動、その後の継続的なつながりが重要。特に、1回で切れてしまわないように、継続的に繋がる手段を用意し、こまめに連絡することが重要であった。</b></p> <p><b>●専門家に定期的に壁打ちしながら、進めることで、スタッフの中でも学びながら実践に活かすというサイクルができ、最終的にはポイント集の作成を通じて言語化までできた。</b></p>			<p>当団体のビジョンとミッションを踏まえ、今年度は、「アウトリーチ個別伴走支援の実施」「保護者相談の実施」「オンラインを活用した「学習支援」の準備/支援者（ボランティア）勉強会の実施」「研修会ならびにポイント集作成」を実施したが、以下の課題が明らかになった。                      「アウトリーチ個別伴走支援の実施」では、繋がれるようになって、家庭の状況などからこどもの状況が不安定になり、会えなくなるときもあった。訪問支援に関しては、保護者や周囲の関係性との関係性を築きながら、家族全員支援する必要がある。「保護者相談」では、保護者が不安を抱え心に余裕がないことで、子どもたちに強く当たってしまう家庭もあった。相談を通じて、保護者が話を整理することの有効性は確認できたものの、一度きりで終わってしまうケースもあった。そのため、継続的な利用ができ、関係性のモニタリングが可能な連絡体制を構築することが必要であると考えられる。</p>		
<p align="center"><b>■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</b></p>			<p align="center"><b>この1年間の活動を通じて</b></p>	<p align="center">最も困難度の高いこどものアウトリーチ型の支援と保護者相談さらに、そのノウハウのポイント集化</p>	<p align="center"><b>を達成しました。</b></p>
<p align="center"><b>■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</b></p>			<p>・2年間引きこもっていたけど、一緒に家の外に出ておでかけできた。                      ・保護者から「丁寧に話を聞いてくれてありがとうございます。自分も余裕がなくなってい、」という発言があった</p>		